

事例 1 歩こう会

背景

浪岡五所川原道路の平成14年度一部供用や十和田バイパスの平成13年度全線供用を控えて、それぞれの地域では、この道路に対する関心が高まっています。この道路事業をきっかけに、道路はどのようにして造られているのか、また、道路と地域づくりとの関わりや自分たちの生活への影響などを、実際道路に触れながら考えてもらうため現場見学会を開催しました。

内容

五所川原小、羽野木沢小は一般国道101号の浪岡五所川原道路を、十和田南小は一般国道4号の十和田バイパスを対象として、実際の工事箇所や建設機械などの見学を約1kmほど歩きながら行い、子供たちからの疑問や質問に分かりやすく答えるなど道路への興味を高めてもらう工夫をしています。また見学後は「道路が出来ると町はどう変わるのか」をテーマとした学習会を、見学会の復習も含めてそれぞれの学校で実施しました。



十和田バイパス・歩こう会



工事現場を元気に歩く生徒たち



熱心に説明を聞く生徒たち



積極的な発言もありました

ポイント

- 普段見ることのできない道路建設現場や建設機械をじかに見学し、ものづくりの魅力や大切さを感じてもらいます。
- この道路が自分たちの生活とどの様に関わり、また地域がどの様になっていくのか、考える契機になるようにしています。

DATA

場 所：青森県浪岡五所川原道路・十和田バイパス
 実 施 者：青森工事事務所 地域づくり推進室 [TEL (017) 734-4521]
 参 加 者：五所川原東小学校 34名、羽野木沢小学校 43名
 十和田南小学校 130名
 実 施 日：平成12年9月16日・10月21日
 学 習 時 間：2時間程度

関係する分野



成果

道路が自分たちの生活にどの様にかかわっているのか、また道路が出来ると町はどう変わるのか、自分たちで地域を見つめ考えました。その学習の結果は羽野木沢小学校のホームページにて、浪岡五所川原道路・歩こう会の参加報告を公開して話題を呼んでいます。また、十和田市「まちの駅」では十和田南小学校の十和田バイパス・歩こう会の参加報告を掲載した壁新聞を展示し広く地域の方々に見ていただきました。子供たちはもちろん、一般の方にも道路について理解を深めてもらうことができました。

参加者の声

「十和田市の国道4号では1日の車の通行台数が11,000台にのぼります。だからよく事故が起きます。それに歩道もせまくて、自転車や歩行者はととても通行しにくい状態になっています。だけど十和田バイパスができると市内の交通量が少なくなり、事故が少なくなります。歩道も広がるので、歩行者や自転車もらくに通行できます。そのために十和田バイパスは十和田市の道路にかかせないものです。」

「僕たちは、十和田バイパスの歩こう会に行って、なぜバイパスができたかとかバイパスができるとどうなるかがたくさんわかりました。その他にもみんなバイパス工事用の車に乗れて楽しそうでした。十和田バイパス「歩こう会」はととても楽しかったです。」



イラスト上手ですね



壁新聞をつくりました

次のステップに向けて

- 道路と地域とを考えるときに、道路にはいくつかの種類と多くの機能があることを調べることも大切です。
- 道には歴史があり、地域の発展や人との営みとも密接に関連しています。地域の道路の歴史を調べることも大切です。